



編集・発行 山見妙勢能勢
山見妙勢能勢報部
〒563-0132
大阪府豊能郡野間中
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

宗祖御降誕 八百年によせて

倉橋 観隆

「この紋所が目に入らぬか。ここにおわす方をどなたと心得る」

ご存知水戸黄門の決め台詞です。その黄門様のお婆様は身延七面山の女人禁制を解かれた養珠院お万の方でお母様はやはり法華経の大信者であられた久昌院久子様です。そのようなご縁で黄門様も法華経へのご信仰が有り、お母様が亡くなられた後、その菩提を弔う為に水戸に久昌寺というお寺を建てられ現在日蓮宗の本山として栄えています。ところで、その黄門様ご自身のお誕生日にこんな逸話があります。

家臣がお祝いの日であるところ、豪華なお膳を用意したところ、黄門様はそれを止められ、白粥と梅干し一つにされました。その理由を「せめて今日一日を粗食とせしは、母上が我れを産みし折の苦しみを、終生忘れぬためである」と語ったという事です。

黄門様にとって誕生日とは両親をはじめ周囲の人々に対する報恩感謝の日だったのです。それを忘れてはならぬと、自らを戒め家臣にも示されたのでした。

さて、お誕生日という今回のお話の標題とさせて頂いたように、今月二月の十六日は宗祖日蓮大聖人様のご誕生になられ八百年の慶賀に当たります。

大聖人様は現在の千葉県安房小湊に漁師の子としてお生まれになりました。そのご生涯はご苦難の連続でした。しかし決して屈つすることはなかったのです。

それはなぜか？お題目を弘めることで人々を救いた。その行動が取りも直さず自分をこの世に送り出し育んで下さった父母、そして縁ある人々に対するご自身の誕生への報恩行だった

からです。

この大聖人様のお心が後世に伝えられ、お万様や久昌院様の信仰の薫陶を受けた黄門様に受け継がれ、ご自身の誕生日の迎え方の心構えともなったのではないかと思います。

大聖人様のこの慶事を迎えるに当たり、私たちも我が命の源を見つめ直す契機として、誕生日の迎え方の心構えとしたいものです。

《法華経に学ぶ現代》

〜純智庵〜

是の比丘

専らに経典を

読誦せずして

但礼拝を行ず

『常不軽菩薩品第二十』

勉強するのは大事だけれど

それよりもっと大事なこと

始めと終わりの礼にある起立！礼で

アリガトウ

気をつけ！礼で

オネガイシマス
それが出来ないあなたなら

いくら頭はよくつても
人格評価は

ゼロになる

【2月の主な行事】

- ☆節分星祭祈禱 2日(火)
- ☆国持会々お火焚祭り
- 11日(祝)10時から法要
- 祈願矢を火に投げ折ります
- ★月例祈願法要 15日(月)13時
- ★月例祈願法要 22日(月)15時

【3月の行事予定】

- ☆報恩大祈禱会 7日(日)10時半
修法特別加持祈禱
- ・荒行僧の水行は取りやめ
- ・お問合せは寺務所窓口へ
- ★月例祈願法要 15日(月)13時
- ☆彼岸会法要 22日(月)11時
- ★月例祈願法要 22日(月)15時

◎ご祈禱・ご回向等のお申し込みは、郵便・FAX・メールでも受付しております

※写経会・星嶺茶論・演奏会は社会情勢を鑑み当面休止

※出会いの鐘巡りは「ひらがなあつめ」に代えて実施中

※登山カード押印は中止

※昇堂時はマスク・人数制限等感染防止にご協力下さい

※送迎車は運行していません

※リフトケーブルは3月19日まで運休(2月11日は特別運行予定) 詳細は能勢電鉄へ

※社会情勢により予定は変更することもあります

※清掃の日は4月からとします

今年も変わらぬ 精進を

桑本 信弘

また新しい一年が始まりました。昨年は、お経を沢山読んだことを目標にしました。法華経は八巻二十八品であり、六万九千余りの文字数です。日蓮宗はかつて他の宗派から読経宗といわれる程に、お経を読む事を重んじました。

普段はつい読み慣れた部分ばかりをスラスラと読んでしまいがちですが、八巻すべてを読み直すと、お経の難しさを改めて感じます。お経の発音の難しいポイントがあつたり、経典の圧倒的な長さや多さに嫌気がさすことも正直あつたりするものです。昔のお坊さんには八巻の法華経をスピーディーに一日三回も唱えて修行なさった方もいたようです。昨年の年明けから、朝晩にゆっくりと読みすすめて、秋も深まる頃には朝晩で一卷と半分くらい、八

巻すべてを五日から一週間ですべて読むようにやりました。読むのが大変なだけに、全巻読み終えた時の達成感も凄く大きなものですが、身体いっぱいにお経の力を頂いたという実感が湧いてきます。

さて、私が苦手な全八巻に取り組めた背景には、同じように読経に取り組む友人が私にはおり、彼との関わりが大きな励みとなっていたのです。

法華経には五種法師という教えがあります。お釈迦様が一番大切な教えを「受けて持ち続け、読誦し、皆に解かるように説き、教えを書き伝えて」心を込めて身を持って供養をする、その意味では修行もまた仏さまへの供養ですね。自分一人だけが悟りや仏さまに向き合うのではなく、同じ志しを持つ友や檀信徒の方々と共に歩む心の触れ合いの中にこそ、言葉を越えた祈

今年の初日の出は、素晴らしかったです。晴れ渡った東天から顔を出した旭日が、年末の残り雪を金色に染め上げ、暫し寒さを忘れて掌を合わせました。翌日も日の出を拝むことが出来ましたが、元日ほどの感激はありませんでした。初日の出ということに意義が

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

あつたのです。ボージョレヌーボにしても初鰹にしても、初ものという事に価値を認めているものは多々あります。でも今日という日は一度しか来ない初ものです。大きな価値があるのです。コロナ禍にあつても、一度しかない今日を大切に生きていきましょう。K.J

りの力に包まれた、まさに見聞触知みな菩提に近づく道が開けてくるのではないのでしょうか。コロナ禍にあつて心身不安定になりがちですが、今一度、天空から見守り下さる妙見さまや周囲の人や自然との稀有な大きな生命の繋がりに思いを馳せて、心の重荷を手放し、法華経の功德と共にまた善き一年となりますよう御祈念申し上げます。

新型コロナウイルス対策について

- ・ご祈祷ご回向は、昇堂人数制限の上、開始時刻を設定
- ・**ご祈祷** 9時半・10時半・11時 12時・13時・14時・15時
- ・**ご回向** 11時半・13時半
- ※開始時刻の30分前までに、受付窓口へお越し下さい
- ※ご参拝の際はなるべく事前のご連絡をお願いします
- ※**お火焚き祭り**では **大根だき・甘酒供養** は中止します

法華経茶話Ⅱ

方便

大乘仏教の利他行を実践するためには、難しい理論ではなく、実践的な方法が求められます。釈尊は、救いを求める人々の理解力や苦悩の現実に応じて、その人にとって最も確かな助言を行いました。この様な実践的な救済の方法を大乘仏教では「方便」といいます。方便とは、手段、手立てといった意味です。大乘仏教では釈尊の知恵一般若を菩薩にとつての母、それに対して方便を菩薩の父とみなします。存在の本質を見抜く知恵を備え、且つそれぞれの特性を見分けて対応する方便がそろって、はじめて菩薩の救済は完成されると考えました。

日蓮宗の根本聖典である『法華経』には方便品という方便をテーマにした章が設けられており、経典全体を貫く重要な観念となっています。